

# 霞ヶ浦帆引き船 フォトコンテスト 審査結果

帆引き船の勇壮な姿と霞ヶ浦の風景をテーマに、応募作品 500 点の中から 35 点が入賞しました。最優秀賞には、「帆引き船の部」で大藤和良さん(つくばみらい市)、「霞ヶ浦の風景の部」で佐賀征雄さん(牛渡)、「小中学生部門」で青砥優花さん(宍倉)が選ばれました。

問 霞ヶ浦帆引き船まつり実行委員会

## 最優秀賞(3人)

### 帆引き船の部



タイトル 日の出前の緊張

撮影者 大藤 和良

### 霞ヶ浦の風景の部



タイトル 毛嵐 1

撮影者 佐賀 征雄

### 小中学生部門



タイトル I Love you

撮影者 青砥 優花

### 入賞者(8人)

市内在住で入賞された方

●読売新聞社賞

飯嶋 清

●旅行読売出版社賞

田井 俊夫

●かすみがうら市観光協会会長賞

渡辺 泰/齊藤 一郎

●ラクスマリーナ賞

円城寺 哲夫

●土浦農業協同組合長賞

小松崎 正義

●入選

田中 敏夫/福田 弘

【神崎公一】

した動きのある作品が増え、選考に迷うほどだった。

## 湖

面を走る帆引き船は、それ自体が絵になる。さらに天気や季節の移ろい、沿岸の町並みや風景を盛り込むことで、力作が数多く生まれた。しかも、人物を加えれば写真に動きが出て帆引き船の華やかさやダイナミックさが強調される。今回はこう

る。残したい日本の風景遺産の趣旨は十分に反映されている。【香掛博光】

## 12

帆引き船の持つ力強さや躍動感、それを操る人間の動きという船と湖と人物が一体となった作品からは、霞ヶ浦の伝統漁法の特徴と自然の姿がよく伝えられている。このコンテストの出発点とも言える。【立木寛彦】

### 審査員講評

## 霞

ヶ浦に満帆となびく勇壮で美しい姿を残す風景遺産の写真コンテスト。デジタルメカニズムの発展や写真技術の向上に伴い、素晴らしい作品が応募されている。上位の入選作品は、他のコンテストと比較しても高い評価がされている。この素晴らしい写真コンテストを継承・継続し、次回のコンテストに向けて挑戦してほしい。【立木寛彦】

回目を迎え、動きのある作品が目についた。

高評価がされている。この素晴らしい写真コンテストを継承・継続し、次回のコンテストに向けて挑戦してほしい。【立木寛彦】

※敬称略

文化協会加盟団体紹介

## 押し花友の会

押し花の魅力は植物の花や葉の色・形を生かしてフラワーアレンジメントにしたり、鳥や動物、風景画などを作ることができることです。

どのひとコマを切り取って構成しようか、どの植物を生かして仕上げようか、いろいろ考えているだけでもワクワクしてきます。身近にある花で楽しい遊びができることを多くの方に知っていただきたいと思っています。

活動日◎第 2.4 月(木)土 場所◎沼田農園(上佐谷)

問三村 静江

☎ 029-831-5270



市民学芸員

雑記帳

## 「常陸国風土記」編纂 1300 年

今年、全国 60 余国に編纂命令が出され制作された『風土記』の記念すべき 1300 年です。現在伝わるものは 5 風土記(肥前・豊後・播磨・出雲・常陸)のみで、東国においては『常陸国風土記』しかありません。その内容は、地形・地勢・産物・伝説などの地域を具体的に紹介したもので、当時の茨城県のすばらしさが詳細に紹介されています。昨年は、この『常陸国風土記』の講座を実施し、市民の方々に茨城県・かすみがうら市のすばらしさを共感していただきました。今年、まさに『常陸国風土記』を通し、茨城県・かすみがうら市を対外的に PR する絶好の年です。郷土資料館では、市民学芸員の会のみなさんと協力し『常陸国風土記』を通して茨城県・かすみがうら市を元気づけていきますので、ご期待ください。

千葉 隆司

▼俳句・短歌・川柳の投稿は、秘書広聴課までお願いします

紫陽花俳句会

子ども等の声のはげしき柚子湯かな  
頑張った終いは破れて枯芭蕉  
風花や額縁ほどの蔵の窓  
さい銭の行方見さだむ初詣

久保庭悦子  
車田 きみ  
萩原とし子  
福田 宏通

千代田俳句同好会

六地蔵赤派手やかに年の暮  
寒月の六甲の山しずかなり  
喪服脱ぎ聖夜の酒と向き合へり  
月天心とぎすまされて枯木立

萩原 初枝  
加藤 貞江  
桜井 筑蛙  
小松崎 緑

文芸ひろば

詠歌の紹介